

## 平成30年度 学校関係者評価委員の評価結果

(評価委員6名による5段階評価の平均値とコメント抜粋)

新宿情報ビジネス専門学校

事務局担当 教務課長 篠田 賢治

委員会開催日 平成30年 7月28日

### 学校関係者評価委員

名前	所属
嶋村 節二	株式会社ビアンシステムズ 代表取締役
	顧問税理士 (地元の中野区在住)
	元・都立高校国語教諭/進路指導主事
	株式会社ビアンシステムズ 技術顧問 (学識経験者・工学博士)
	2007年度卒業生 ICT サポーター
	企業向けの講演活動と執筆業

新宿情報ビジネス専門学校

項目	個別評価
<b>重点目標 1</b> 学校関係者評価実施体制の確立	4.8 (29/6)
学校の計画	4.7 (28/6)
取組状況	4.7 (28/6)
<p>【評価委員のコメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 十分な計画と取り組みの下に専門学校等評価基準 Ver.4.0 に準拠して年度ごとに改善を重ねている。</li> <li>● 国の施策や環境変化への対応は十分である。教育自体の目的との連動も更に深められたい。</li> <li>● 定期的な評価はさらなる質的向上に直結すると期待できる。ただ、学校自身の理想については若干薄目な気がする。</li> <li>● 定めた計画に対する責任的な実行とチェックは充分に行われている。</li> <li>● 「講師も設備もハイレベルを目指す」というテーマ通り、実務経験豊富な教授経験者を講師に迎えている。</li> <li>● 演習に力点を置くのは実践的人材育成に向けて効果的だと考えられる。</li> <li>● 開発方面の学習に注力しようと体制充実を図っている。留学生のモチベーションにも配慮した目標設定が的確である。</li> <li>● 企業にとってより幅広い問題解決を担う人材の育成を「開発演習」について、今後の展開に大いに期待したい。</li> <li>● IT 企業代表者の参画を得た事は評価できる。国際感覚の養成のための施策が必要と考える。</li> <li>● 日本人学生と留学生の人数アンバランスに対する施策が必要と考える。</li> <li>● 学則を改訂し、職業実践専門課程の文部科学大臣認定学科の申請準備を着実に進めている。</li> </ul>	
<b>評価基準 1</b> 教育理念・目的・育成人材像	4.7 (28/6)
評価項目（中項目）	
<p>【評価委員のコメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 職業技術の高度化は、どの分野においても時代の流れで、技術取得のための支援はますます重要。</li> <li>● 学校設立当初から教育理念・目的・育成人材像は確立されているので、その成果は今後に期待。</li> <li>● 昨今の環境変化を適切に受け止め、社会に寄与できる理念・目的・育成人材像を掲げている。</li> <li>● 「スマホアプリ開発課題演習」による職業教育の実践という時代に即した教育を行なっている。</li> <li>● 個性化というキーワードと企業のニーズ、そして学生のモチベーション維持をいかに並立させ相乗効果を生むか、今後の楽しみ。</li> <li>● IT から ICT へのシフトが単なるキーワードの置き換えにとどまらないよう、Android アプリ開発等を含め期待している。</li> <li>● 留学生に対する演習型教育の充実が課題である。</li> <li>● 学生の経済的、職業的自立支援システムを適用した人材育成の効果は期待できる。</li> <li>● 学生の発表の機会を設けることは、教育目的である職業社会人を育成する上で有効的である。</li> </ul>	

<b>評価基準 2</b> 学校運営	
評価項目（中項目）	4.8 (29/6)
<p><b>【評価委員のコメント】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● スタッフの間の意思疎通が教育方針や運営の実践面のカギになるのでしょうか。コーチング研修も有効な一方法だと思います。</li> <li>● 少人数制でトップダウンの効率経営から、経営スタッフの若返りを図るため、ボトムアップに移行しスタッフ教職員一人ひとりの戦力化を目指している。</li> <li>● 全体を総括的にとらえるのではなく、複数要素の相乗効果を生むための適切な分析・設定・実施が成されている。</li> <li>● 毎日の朝礼で前日の反省とその日の優先すべき業務予定を話し合っている。</li> <li>● 組織の強化とともに、教える側、運営する側、両面のバランスのよい拡充を図っている。役割分担に対する考え方もよい。</li> <li>● 学生への充実した教育を志向する上で、経営・講師・職員の連携と行動指針の共有は極めて重要。その辺りを意識して、常に自己改革を続けている。</li> <li>● スタッフ教職員の管理は適切に行なわれているが、非常勤講師への適切な情報開示をお願いしたい。</li> <li>● 教職員用サイトでの情報共有は作業の時間短縮を図るうえで効果的と思われるため、有効活用を期待したい。</li> </ul>	
<b>評価基準 3</b> 教育活動	
評価項目（中項目）	4.3 (26/6)
<p><b>【評価委員のコメント】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 職業委託訓練職業教育レベルが向上したので、今後は専門課程の職業教育に活用を期待したい。</li> <li>● 職業委託訓練で多様な問題解決に取り組み、質的にも職業教育レベルが向上したので、そのノウハウを専門課程の職業教育に活用している。</li> <li>● 内部で定める方向性のみならず、社会からの要求に真摯に応え、教育活動の本質を果たす実績を上げている。</li> <li>● 資格取得者名を掲示している掲示板について、昨年拝見し感じたことなのですが、もう少し目に留まる工夫をしてもよいのでは。目を引く掲示にすれば、他の学生への意欲にもつながるかも。</li> <li>● 企業の即戦力たる人材の育成とともに、単位の互換性など、学生たちのモチベーションに配慮したカリキュラム・教育体制になっている。</li> <li>● 学びと働きを両立させる独自のデュアルシステムは、もう一つのキーワードである「プロフェッショナル」の育成にも効果的であると期待される。</li> <li>● 外国人に対して、より適切な資格を模索する必要があると考える。</li> <li>● 入学前後の適職診断だけでなく、継続して診断するのは有効と考える。</li> <li>● 学生への動機づけの方法に具体性が欲しい。</li> <li>● アクティブ・ラーニングも有効的かと思われる。</li> </ul>	

<b>評価基準 4</b> 学修成果	4.5 (27/6)
評価項目 (中項目)	
<p>【評価委員のコメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 適職診断やカウンセリング体制の整備は学習者のモチベーションを高めるには必須の項目である。</li> <li>● 日本版デュアルシステムやキャリアデザイン教育で就職率は良好である。</li> <li>● ともすれば資格を取得させればよい、就職させればよいというように偏りがちである筈だが、視野を広く保ち、学生全体の向上を目指す活動をしている。</li> <li>● 資格取得の意味を認識させ、資格取得という目標を立てることにより学習意欲を高めること、達成したときの喜びがその後の自信へと結びつくことを期待したいです。</li> <li>● 職業訓練という短期集中型の教育体制を築いた経験をカリキュラムやシラバスの構成に有効に活かしている。モチベーションに対する配慮も充分である。</li> <li>● 在校生の就職に対する意欲を向上させるには、多面的アプローチが必要とされそう。キャリアコンもより踏み込んだ内容に進化してゆく必要があるかも。</li> <li>● 適職診断とのかねあいからすれば就職先企業に対するフォローは切り離せない。</li> <li>● 資格マスター努力賞の制定・卒業式での表彰は、資格取得の意欲を高めるのに効果的と思われる。</li> </ul>	
<b>評価基準 5</b> 学生支援	4.7 (28/6)
評価項目 (中項目)	
<p>【評価委員のコメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 入学前の体験入学で適職診断を実施したり、学費減免特待生制度の対象者を拡充したりして学生支援体制を強化している。</li> <li>● 学生にとって金銭面の負担軽減や就職支援は有用なものだが、より広い視野・発想で、多面的・総合的な支援を期待したい。</li> <li>● 中途退学者回避のためにきめ細やかな対応に努めている。入学後も他学科への編入学を可能にするなど柔軟な対応を可能にしている。</li> <li>● 自分自身を知り、役立ち方を模索する学生達を支援する態勢づくりが充分になされている。精神面のみならず、経済面の支援も考慮されている。</li> <li>● 学習内容の充実のみならず、環境面、精神的なケア、経済的な支援等、複合的・多重的に学生を支援してゆくことが明確に意識されている。</li> <li>● きめ細かくやられていると評価します。</li> <li>● 情報社会にあってはスキルアップは必須と考えられる。システム化が必要か。</li> <li>● 学生相談に関する体制が細やかに整備されている。</li> </ul>	
<b>評価基準 6</b> 教育環境	4.8 (29/6)
評価項目 (中項目)	
<p>【評価委員のコメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 午前に学び、午後から働ける日本版デュアルシステムのモデル校。校内スピーチコンテストは日本</li> </ul>	

<p>人学生と外国人留学生の交流で国際感覚の養成に努めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 前年同様、安全性・利便性への配慮は行き届いている。分進秒歩を評される ICT 分野だけに技術革新への適切かつ素早い対応を今後も期待する。</li> <li>● 「IT」→「ICT」のシフトを考えた場合、LAN というハードウェアだけでなく、ソフトウェア面の更なる充実が望まれる。その辺りを今後の取り組みに期待したい。</li> <li>● 情報系専門学校における設備・環境は PC やネットワークもだが、非情報インフラの充実も大きな要素となる。その点についても考慮・対応されている。</li> <li>● 教育設備は充実している。</li> <li>● コンピュータの新機種の入替えも行なわれ、実習に不可欠な設備を十分に整えている。</li> </ul>	
<p><b>評価基準 7</b> 学生の募集と受け入れ</p>	<p>4.3 (26/6)</p>
<p>評価項目 (中項目)</p>	
<p><b>【評価委員のコメント】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 学校案内はとかく受信者側の情報にかたよりがちですが、受信側の視点は大切だと思います。実際に難しいのは後者と思われませんが。</li> <li>● 大学全入時代を迎え、東京都の高校新卒者の 64%が大学へ進学。専門学校は高校既卒者や大学生・社会人と留学生の受け入れで特色ある職業教育を目指す。</li> <li>● 学校としての価値を高めるとともに、他との差別化を図り、生徒本人の入学後の満足度を重視し、質向上を志向している。</li> <li>● 日本人学生の取り込み手段として既存の Twitter の活用が有効と思われます。詳しい内容を記入しなくても、更新したサイトに飛んでもらうように URL を貼るだけでも効果的なのではないか。</li> <li>● 学校経営と学生主体の教育という両要素を適切にバランスさせている。意欲付けの方法も、個々の学生の状況や性格・志向に沿ったものを志向している。</li> <li>● 1 部コースと 2 部コース学生の人数アンバランスの是正が課題。共学化の一層の推進はどうか。</li> <li>● 日本人学生が相対的に少ない背景について職業観、情報社会の底流に変化が生じているのか、分析が必要。</li> <li>● 他校との差別化も特色もあるので、応募につながる学校案内やオープンキャンパスの内容を期待したい。</li> </ul>	
<p><b>評価基準 8</b> 財務</p>	<p>5.0 (30/6)</p>
<p>評価項目 (中項目)</p>	
<p><b>【評価委員のコメント】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 少子化や社会環境の変化に対応した経営形態の方向性は多角経営なのでしょう。</li> <li>● 東京都認可の個人立専門学校 (専修学校専門課程) を無借金経営で運営している。</li> <li>● ディアルシステムという自立独立を促す学習態度に関する指針は、学校のみならず学生自身にもプラスに働く筈である。</li> <li>● 学生の学費負担を年 8 8 万円に抑える一方、武者歛経営を継続させている。揺るぎない教育理念の設定と明確な中長期ビジョンの成果と、高く評価できる。</li> </ul>	

<b>評価基準 9</b> 法務等の遵守	5.0 (30/6)
評価項目 (中項目)	
<p><b>【評価委員のコメント】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 特色ある教育システムをいかに多くの人に流布させられるか、その方向が鍵のように思います。</li> <li>● 平成 20 年から自己評価の実施体制を改善・整備しているので、今年度は学校関係者の実施体制の整備・確立を目指している。</li> <li>● チェック機能が健全に作用するには、組織の在り方と個々人の意識が重要である。コーチング的な手法も取り入れ、優れた姿勢であると評価する。</li> <li>● 個人情報の取扱いを含め、目的→目標→体制→実施→検証の順序が徹底されている。それをする／しない意味を皆が共有する上での有効性が期待できる。</li> </ul>	
<b>評価基準 10</b> 社会貢献・地域貢献	5.0 (30/6)
評価項目 (中項目)	
<p><b>【評価委員のコメント】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 平成 11 年以来、離職者等再就職訓練などの付帯教育事業で 20 歳代から 60 歳くらいまでの離職者約 1,100 名の職業訓練と再就職支援を実施し、社会貢献並びに地域貢献に寄与している。</li> <li>● ともすれば己の利益のみ追求しがちな中で、地域や社会への支援の視座を失わずにいる。より新しい発想の規格も期待する。</li> <li>● 若年者への教育中心から、生涯教育や現就業者／離職者の再教育等へと守備範囲が広がりつつある。視野を広く持つことで、より大きな社会貢献が期待できる。</li> <li>● 学生の選択肢が広がるよう実習訓練先のバラエティあるものへの取り組みを期待したい。</li> <li>● 留学生と地域のつながりを強化しようとする努力がみられる。</li> </ul>	